

令和 7 年 4 月 1 6 日

令和 6 年度龍ヶ崎地方衛生組合地球温暖化防止実行計画の実施状況等について

1 総括

令和 6 年度における本組合の事務・事業に係る温室効果ガス総排出量は、集計の結果 816 トンとなり、基準年度である令和 3 年度の総排出量 1,070 トンと比較して 254 トンの削減となりました。これは、組合圏域の下水道普及や人口減少に伴い、本組合のし尿処理量が減少したことが大きく影響しています。

今後も、これまでの取組を着実に推進し、なお一層の温室効果ガスの排出量の削減に努めて参ります。

2 温室効果ガス排出量及び増減要因

(1) 本組合における令和 6 年度の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO2)

	令和 3 年度 (基準年度)	令和 6 年度			目標 (令和 7 年度)	
		実績値	基準年度との比較		排出量	削減率
			増減	削減率		
総排出量	1,070	816	△254	△23.74%	1,039	△2.90%
二酸化炭素	942	696	△246	△26.11%	914	△2.93%
メタン	63	64	1	1.59%	61	△3.00%
一酸化二窒素	22	18	△4	△18.18%	21	△3.00%
HFC-134a	43	39	△4	△9.30%	43	—

(2) 令和 6 年度の要因ごとの温室効果ガス排出量

(単位：t-CO2)

	令和 3 年度 (基準年度)	令和 6 年度			目標 (令和 7 年度)	
		実績値	基準年度との比較		排出量	削減率
			増減	削減率		
二酸化炭素	942	696	△246	△26.11%	914	△2.93%
電気使用に伴う排出量	886.4	658.4	△228.0	△25.72%	859.8	△3.00%
ガソリン使用に伴う排出量	2.1	1.6	△0.5	△23.81%	2.0	△1.00%
灯油使用に伴う排出量	11.1	7.4	△3.7	△33.33%	10.9	△1.00%

A重油使用に伴う排出量	22.6	26.4	3.8	16.81%	21.8	△3.00%
プロパンガス使用に伴う排出量	19.8	1.8	△18.0	△90.91%	19.5	△1.00%
メタン	63	64	1	1.59%	61	△3.00%
公用車の走行に伴う排出量	0	0	0	0%	61	△3.00%
し尿処理に伴う排出量	63	64	1	1.59%		
一酸化二窒素	22	18	△4	△18.18%	21	△3.00%
公用車の走行に伴う排出量	0	0	0	0%	21	△3.00%
し尿処理に伴う排出量	22	18	△4	△18.18%		
HFC-134a	43	39	△4	△9.30%	43	—
公用車のエアコン使用に伴う排出量	43	39	△4	△9.30%	43	—

(3) 取組の状況

取組項目	令和6年度実施状況	目標値	達成度
電気使用料の削減	・し尿処理設備の各機器を効率的に運転し、常時運転する機器以外の機器の運転時間の削減を推進しました。 ・事務スペース以外の部屋の消灯を推進しました。	△3.00%	△25.72%
ガソリン使用料の削減	・公用車の相乗り等を推進しました。	△1.00%	△23.81%
灯油使用料の削減	・事務スペース以外の部屋の暖房の使用を最小限に留めました。	△1.00%	△33.33%
A重油使用量の削減	・焼却炉の運転時間を延ばすことにより、運転回数を減らし、始動に要する燃料の削減に取り組めました。	△3.00%	16.81%
プロパンガス使用料の削減	・ガス給湯器の使用を最小限に留めました。	△1.00%	△90.91%
コピー用紙等の購入量の削減	・両面印刷を推進しました。 ・電子データの活用によるペーパーレス化を推進しました。	△10.00%	△33.70%

(4) 増減要因

1) 排出量増加の主な要因

- ・ A重油の使用に伴う二酸化炭素排出量の増加要因は、し渣焼却炉の効率的な運転が行えなかったものです
- ・ メタンの排出量の増加要因は、最大の排出要因である「し尿処理量」は減少しているものの地球温暖化係数の見直しにより増加となったものです。

2) 排出量減少の主な要因

- ・ 電気の使用に伴う二酸化炭素の排出量の減少要因は、「し尿処理量」の減少及びこれに伴う処理施設の効率的な運転により減少となったものです。
- ・ ガソリン、灯油及びプロパンガスの使用に伴う二酸化炭素の排出量の減少要因は、公用車、暖房、ガス給湯器の使用を抑制したことにより減少となったものです。
- ・ 一酸化二窒素の排出量の減少要因は、最大の排出要因である「し尿処理量」の減少に加えて地球温暖化係数の見直しにより減少となったものです。

3 今後の措置・取組への反映

令和6年度の排出量は、し尿処理量の減少に伴い大きく削減されましたが、引き続き効率的な施設の運転管理や適切な公用車、冷暖房機器、ガス給湯器の使用などによりさらなる排出量抑制に取り組めます。

令和6年度はA重油使用量の削除目標達成をできなかったもので、効率的な焼却炉運転によるA重油使用料の削減を推進します。

また、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」の規定によるグリーン購入については、いまだ職員に定着しているとは言えず、職員に対するさらなる意識付けを推進します。